気軽に散歩　（新潟県・佐渡島）

日本海に浮かぶ佐渡島は沖縄本島の３分の２ほどの大きさで、約６万人が住む。北に大佐渡山地、南に小佐渡山地がそびえ、その間に国仲平野が広がる。都から配流された文化人などが伝えた京文化が根付き、中でも能がさかん。特産の米や、沖合で交わる暖流と寒流がもたらす魚介類なども豊富。

佐渡島東部の両津港から、車で国仲平野を西へ走る。稲刈りを終えたばかりの田が広がる。１時間ほど走ると、前方に日本海の濃い青が見えてきた。海を左に見ながら少し走り、山手に入るとすぐに史跡佐渡金山の入口に着いた。島には50以上の鉱山が確認されている。その中でも現在史跡佐渡金山として公開されている、相川金銀山は世界でも有数の金産出量を誇った。江戸時代に発見され、平成元（１９８９）年に閉山されるまで、約78トンの金が採掘された。

かつて鉱石の運搬坑道だった道遊坑に入る。ひんやりした空気にはっと目が覚める。坑内は年間を通じて10度ほどで、酒の醸造も行われていた。現在も日本酒や焼酎が貯蔵されている。

コツコツと響く自分の足音を聞きながら歩く。道遊坑から出て坂を上っていくと、山にぽっかりと穴が開いていて驚く。この道遊の割戸（写真②）は相川金銀山の主要な鉱脈であった道遊脈を採掘した跡で、国定の史跡。しゃがんでしばらく見上げる。その穴の大きさと深さは、とても人の力で開けられたものとは思えない。

割戸の迫力に圧倒されたところで、今度は江戸時代初期から開発された宗太夫坑へ入る。江戸時代の金採掘や測量などの様子が再現されている。人が這ってやっと通れるほどの穴もあり、見ているだけで、金山で働いた人々の苦労が伝わってくる。

続いて、佐渡の名勝の一つである尖閣湾に向かった。尖閣湾は波の浸食と土地の隆起でできた海岸段丘が特徴的な景勝地。昭和初期にノルウェーのリアス式海岸になぞらえて名付けられた。金山や能舞台など歴史上重要な史跡に、独特の地形や植物など自然があふれる佐渡島。ゆっくり時間をとって訪ねてほしい。

「海員だより」